

令和4年度 狛江市立学校第三者評価委員会 報告書 概要版

1 狛江市立学校第三者評価委員会委員

【委員】

委員長 帝京大学大学院 教授 坂本 和良
 委員 一般財団法人 教育調査研究所 研究部長 大橋 明
 委員 狛江分区保護司会 会長 小町 新一
 委員 横浜 DeNA ベイスターズ 元監督 中畑 清

【事務局】

狛江市教育委員会教育部理事兼指導室長 松岡 弘悟
 狛江市教育委員会教育部指導室統括指導主事 角田 恒一

2 第三者評価実施概要

平成24年度までは全小中学校を毎年評価対象校としていたが、平成25年度から全校を中学校区によって2グループに分け、5校ずつを隔年で評価することにより、短期的な評価に加え、2年間のスパンで中期的な評価を実施することとした。

これまで評価委員による学校訪問を年2回実施し、1回目に評価の観点における各校の課題の確認、2回目にその課題に対する取り組み状況や改善内容を確認することで、より学校の実態に沿った評価を推進した。

令和2・3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、直接の学校訪問ではなく、動画視聴やライブ配信の方法を取り入れ、学校と評価委員がオンラインで直接質疑応答や授業観察を行う形式で実施した。

令和4年度は感染症対策を行ったうえで、全て直接の学校訪問を実施し、3年ぶりに学校の状況を直接確認し評価を行った。

3 令和4年度評価対象校及び評価の観点

学校名	観点①	観点②
狛江第三小学校	学習を深めるためのICT機器の活用	身に付けさせたい力を明確にした授業の実践
狛江第六小学校	学力向上を図るためのICT機器の活用	自分の考えを伝え合う学習活動の工夫
和泉小学校	かかわりを促すためのICT機器の活用	ICTを活用した個別最適な学びの実践
狛江第二中学校	ICT機器の授業内での効果的な活用	自主的・自発的に学びに向かう生徒の育成
狛江第三中学校	ICT機器の学習への効果的な活用	学習を深めるための話し合い活動の工夫

4 狛江市立学校第三者評価委員会の経過

- 第1回学校訪問 学校説明、学校経営方針説明**
令和4年6月29日(水)～令和4年7月15日(金)
- 第2回学校訪問 第1回訪問時の指摘事項の改善状況の確認**
令和4年12月7日(水)～令和5年1月30日(月)
- 報告書検討会**
令和5年3月7日(火)

5 総括

(1) 学校経営の状況について

- 今回評価の対象となった学校全てにおいて、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められており、充実した教育活動が展開されていたことから、安定した学校経営が行われていることを確認できた。
- 働き方改革の一環として教員間の同僚性の向上は非常に有効である。教員同士の交流、授業観察等、互いに高め合うことによって学校全体が有機的に動ける組織になる。
- 教科等の指導を中心としつつ、いじめ、不登校の未然防止や防災・防犯のための取り組みにも力を入れるよう引き続き努力してほしい。
- 子どもの体が形作られる大切な時期なので、運動する機会の確保と意欲の向上を図るための取り組みを推進し、子どもたちの体力の向上を図ってほしい。
- 今年度から導入されたコミュニティ・スクールと地域学校協働本部の連携を推進し、外部人材の有効活用による、より豊かな教育活動につなげてほしい。

(2) 教育委員会の支援について

- 校内研究で目指そうとしていることと、教員が実際に行っている指導がかみ合っているのかを確認する必要がある。校内研究会に外部から講師を招聘する際、市教委の指導主事も同席して、必要に応じて指導・助言をして改善を図ることも大切である。
- ICT機器を浸透させるには日々の技術的な支援も必要となる。ICT支援員等の活用を積極的に取り入れ、現場の要望に答えられる体制づくりのためにも継続的な予算措置が必要である。
- ICT機器の活用以前の問題として、授業の組み立てや教材の活用など基本的な指導技術の修得が必要な教員もいるはずである。校内でのOJTに任せるだけでなく、教育委員会としても研修の機会を設定し、学校訪問をして授業観察を行うなど、指導主事を活用した学校支援を行ってほしい。

6 各学校における主な評価

【狛江第三小学校】

- ◆児童の実態から「子どもがチャレンジ意欲を高め、創造性を発揮する教育」を掲げて取り組んでいることが理解できた。また、会議の削減、行事の見直し、時差出勤等働き方改革にも積極的に取り組み、教員の負担軽減に努めていることが確認できた。校務改善の取り組みは他校でも参考にできるものである。
- ◆ICT機器はツールなので、一斉に皆が同じ方法で使用しなくてもよい授業の在り方を研究してほしい。

【狛江第六小学校】

- ◆教育目標の具現化を図る方策や、学校経営方針の関連が分かりにくい部分がある。少人数指導やICT機器の活用をどのように「よく考える子」の育成と繋げていくのかなど、明確にしていく必要がある。
- ◆ICTの活用について学校全体として活用するアプリや活用場面を検討しながら6年間を見通した指導計画の充実を図る必要がある。

【和泉小学校】

- ◆教員間の関係がよくなり、多くの教員がかかわって課題のある学級の支援を行うなど、学校全体が有機的に動ける組織になっている。学校運営の核となる主任層の教員を育てたことがポイントになったと思われる。
- ◆授業には本来教科のねらいがあり、それを達成するために「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「ICT機器の活用」といった指導上の配慮がある。教科のねらいをしっかりと踏まえた上で、研究テーマにせまる指導の工夫を行ってほしい。

【狛江第二中学校】

- ◆生徒の笑顔を守るためにも、いじめ、不登校の未然防止のための取り組みを計画通り実行し、防災・防犯にも力を入れるよう引き続き努力してほしい。
- ◆ICT機器の授業内での効果的な活用について、市内中学校内では同じ機器を使っているため、横のつながりを生かして、アプリの情報等を共有し、より有効な活用方法を模索してほしい。

【狛江第三中学校】

- ◆コロナ対策等でリモート授業を行い、学校に来られない生徒への配慮が見られた。不登校生徒への対応については、学校が中心となりながら、地域を巻き込んでのコミュニティ・スクールの機能を活用した対応策も検討してほしい。
- ◆生徒同士の話し合いの過程で、自分の考えに変容があった際、考えの変容を学習の振り返りにおいて確認するために、自分の考えをワークシート等にメモすることが必要である。このことによって、生徒に学習の調整力が育っていく。